

## 第 32 回 Pitch to the Minister 懇談会 “HIRAI Pitch” 議事概要

### 1. 開催日時・出席者等

○日時： 平成 31 年 3 月 11 日(月) 12:00~13:00

○場所： 中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ：“Open Innovation for SDGs”

○招へい者： 西口 尚宏 Japan Innovation Network (JIN) 専務理事

○出席者：平井国務大臣、幸田内閣府審議官、中川審議官（科技）、佐藤審議官（科技）、鈴木参事官（科技）、水元参事官（科技）、石井企画官（科技）、住田知財事務局長、高田宇宙事務局長、八山参事官(IT)、奥田参事官（IT）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

### 2. 西口氏からの説明

- 経済産業省フロンティア人材研究会を経て、2013 年に Japan Innovation Network (JIN) を立ち上げた。以後、日本企業におけるイノベーション経営の導入および実践を支援している。
- イノベーションは、「これまでの経験」から「作りたい未来」への意図的なシフト。オープンイノベーションは、この「意図的なシフト」を（1 社のみではなく多様なアクターが連携することで）効率的に作り出すための方法論として捉えられよう。
- SDGs は、「作りたい未来」が包摂的・具体的に合意された“人間の本質的な欲求リスト”であり、これらの課題を解決するための事業づくりに大きなビジネスチャンスがある。現実的には、課題は、政策・行動様式・インフラ等複数の要素が複雑に関係しあっており、大きな変化を起こすためには、個別の要素に対処するだけではなくこれらの因果関係全体を捉え解決策としてデザインする能力が必要。

### 3. 主な質疑応答・議論

- 多くの日本企業は与えられた条件のもとでは世界トップクラスの実行力を誇るが、こと構想力という点では非常に弱い。決まった枠組みの中で事業を拡大させてきた人々が経営者になっており、成功体験を捨て新しいことをやらねばという危機感はあるものの、具体的な行動につなげられていない、という課題が指摘された。
- 行政についても、既存の法律改正や国会対応等に意識が向きがちのため、例えば民間企業のスタートアップ部門等に、まだ発想が柔軟な若手の役人を出向させ、アイデア収集

の方法論やビジネスモデル構築、事業化に関わる教育・OJT等を実施すると良いのでは、との意見があった。加えて、逆に民間の立場では政策立案の手法は未知であり、官民相互の人材が交流（政策立案×事業創造の、経験値のダイバーシティを構築）することで日本全体としてのイノベーション活性化につながるのでは、との議論があった。

- イノベーションには不確実性が伴い、そのマネジメント・評価の難しさについて議論があった。行政の慣習上、未知・不確実なものに対する抵抗があり、KPIに到達できなければ「失敗」という評価に陥るため目標設定が現実的なものになりがちである、との指摘があった。他方、一部の民間企業では、プロセスの中で得た学びを重視する等、イノベーションに対する新たな評価軸を設定し始めているという紹介があった。

（了）

（速報のため事後修正の可能性あり）